

# 「この子を置いては死ねない」—その言葉がきっかけでした 障がいのある子の「親なきあと問題」「老障介護」の一助となる「終活キット」 新発売

2024年10月17日(木) 自社サイトにて販売開始

終活キットなどの企画・販売を行っている株式会社はっぴい and プロジェクト(本社:大阪市中央区/代表:辻 瑞恵)が、10月17日(木)に「親なき障がい者の未来をMAMORU『ゆいごん白書®』」を発売します。

厚生労働省から発表された障がい者総数の推計は1164万人(2024年5月)おり、障がいのある子をもつ親にとって切実なのが、「親なきあと問題」—。「この子を置いては死ねない」と心を痛めている親御様たちがどんどん高齢となり、「老障介護」も社会問題となっています。

いつかは必ず訪れる親の死。わが子を託すことになる施設等に事前に伝えておかなければならない情報は山ほどあるのに、何をどうまとめておけばよいかかわからない…多くの親御様がそんな悩みを抱えています。

今回、発売する「親なき障がい者の未来をMAMORU『ゆいごん白書®』」は、障がいの詳細、できごととできないこと、クセやこだわり、日常生活、コミュニケーションなどがチェックマーク形式☑で簡単に記入でき、将来、子どもをみてもらう方に知っていただきたい内容がひと目でわかるようになっています。さらに3枚の複写式で、施設や後見人、親族等の3人の方に渡しておくことができる、これまでになかった終活キットです。

今回の制作にあたり、障がいの子をもつ家族会等にも足を運び、実際に障がいの子をもつ親御様たちや親なきあと問題の専門家と一緒に取り組みました。試作の段階で、親御様や施設関係者20人にモニターになっていただき、皆様からのご意見を参考に修正を重ねて完成しました。モニターの親御様たちからは「これがあれば元気なうちに肩の荷がおろせます」等の声(次頁参照)をいただいております。ご取材をいただければ幸いです。

**商品概要** **商品名** 親なき障がい者の未来を MAMORU『ゆいごん白書®』  
**発売日** 2024年10月17日(木) **販売価格** 3,300円(税込)  
**販売方法** 自社サイト、ホームページにて販売 <https://yuigonhakusho.com/oyanaki/>



親なき『ゆいごん白書®』+身元確認シート (A3シート複写式4枚) 3セット

ゆいごん白書 専用封筒(2枚)

名刺サイズの緊急連絡カード

A4サイズの知つとごノート(左)  
A4サイズのあんしん覚書ノート(右)

### 親なき『ゆいごん白書®』の特長

- 日常生活、コミュニケーション、金銭感覚、こだわり、クセ、好き嫌いなど、子どもに関する伝えておきたい項目を掲載。
- アンケート形式。該当箇所にチェックマーク☑を入れるだけ。
- ノートとは違い3枚の複写式シート。1枚書くと同時に3枚が完成。
- 1枚はオレンジのパッケージに入れて子どもの未来を託す人(親族・施設等)へ。残り2枚は専用封筒に入れて親族や後見人など計3名に渡しておく。

#### 5つの特典

- 災害時、行方不明等に役立つ「身元確認シート」(複写式)付き
- 財布等に入る、もしもの時に役立つ「緊急連絡カード」付き
- 専門用語等を解説した「知つとごノート」付き
- 必要な情報をまとめておける「あんしん覚書ノート」付き
- 「あんしん覚書ノート」の記載シートをWord形式でダウンロードできるサービスもあります



上記画像は、A4 サイズ(A3シート2つ折り)のシート4枚をこの中に入れて渡しておく、「親なき障がい者の未来をMAMORU『ゆいごん白書®』」のパッケージ(22×31cm)。この中に左記の一式が入っています。

—「親なき『ゆいごん白書®』」に関するお問い合わせ、取材等については—

担当者/辻 瑞恵 ©携帯 090-1242-1972 ☎ 06-7777-1456(株式会社はっぴい and プロジェクト®)

Mail [tsuji@happy-and-project.jp](mailto:tsuji@happy-and-project.jp)

HP <https://yuigonhakusho.com/oyanaki/>

## 【障がいの子をもつ親の現状】

厚生労働省が2024年5月に発表した障がい者総数の推計は**1164万人**（身体障がい者数は約423万人、知的障がい者数約126.8万人、精神障がい者数約614.8万人/うち障害者手帳所持者は610万人）。これは、日本の総人口の約**9.3%**に相当。所在の内訳は在宅が95.8%、施設入所が4.2%でした。

障害者手帳所持者数の**年齢別20歳～64歳**の割合は、身体が23.5%、**知的60.5%、精神70%**で、とくに知的障がい者・精神障がい者の割合が高く、その親世代となると50代～80代以上になります。

さらに厚生労働省が2016年に行った「生活のしづらさなどに関する調査」（右図）では、**65歳未満の障がい者の同居者の状況は「同居者有り」が80.6%、その同居相手は「親」が65.6%**と多く、今や「**親なきあと問題**」「**老障介護**」は大きな社会問題にもなっています。

## 【制作に至った経緯と完成までの道のり】

完璧な終活をした叔父の死をきっかけに『ゆいごん白書®』を制作したのは2000年。事業化したのは2015年。以来3000人以上の方が弊社の終活キット『ゆいごん白書』を用いた作成講座にご参加いただき、その中に障がいの子をもつ親御様たちの「家族会」もありました。そこで言われた言葉「**障がいの子を置いては死ねない**」。その言葉がきっかけとなり、「**親なきあと問題**」「**老障介護**」の一助となるものがないのか…と考え、「親なき障がい者の未来をMAMORU『ゆいごん白書®』」（親なき『ゆいごん白書®』）を制作。

完成までに費やした期間は1年半。障がいの程度も年齢もクセも生活習慣も皆それぞれ違うため、さまざまな設問を想定し、障がいの子をもつ親御様たちや「親なきあと問題」の専門家、施設関係者等にもご協力をいただき、8割方できた段階でモニター20名にもみてもらいました。その際に重度障がいのお子様をおもちのお母様から言われたのが「**うちの子はほとんどができない。そのため答える順番が『できる』から始まるのは辛い**」と。「確かにそうかも…」と親目線でもう一度見直し、全部の質問を『できない』からに変更。さらに**子どもの終末期や犯罪歴、生理・性の問題**まで加え、修正を何度も重ねて、ようやく完成の運びとなりました。

仕様は、A3シート4枚に「障がいの程度」「日常生活」「コミュニケーション」「金銭感覚」「性格・クセ」「できること・できないこと」等220の設問があり、該当する箇所チェックマーク☑を入れていただく。記入方法が簡単で、親であればわかる内容がほとんどなので、**作成時間は約40分**（弊社モニター平均調べ）で完成します。さらに、**3枚の複写式シートなので3人に託せるのも特長**。例えば施設、親族、後見人の3人の方に渡しておけるため、安心・安全です。もし施設やお世話する方が変わっても、このシートが「申し送り」の役目を果たします。

## 【制作協力・モニターになっていただいた親御さんたちからのご感想】

- 「子どもの障がいのことや、できることとできないこと、クセやこだわりなどが、**チェックシートで簡単に記入できるようになっている**。これなら **書類を書くのが苦手な私にも書けそう**」
- 「現在、25歳になる次女のこと。将来、長女と三女にみてもらうわけにはいかないし…と悩んでいましたが、こちらは**3枚の複写式なので、3人に渡しておけるので有難い**」
- 「将来、息子をみてくださる方に**知っていただきたい内容をきめ細やかに伝えることができるため、元気なうちに肩の荷がおろせます**」
- 「**未来の漠然とした不安がなくなり、娘との今を思いっきり楽しめそうな気がしてきました**」など

## ●障害者手帳所持者の同居者について (65歳未満)

同居者の状況	割合(%)
<b>同居者有り</b>	<b>80.6</b>
一人で暮らしている	11.4
不詳	8.0

## ●「同居者有り」と回答した者について 同居相手(複数回答)

	割合(%)
夫婦で暮らしている	32.8
<b>親と暮らしている</b>	<b>65.6</b>
子と暮らしている	19.0
兄弟姉妹と暮らしている	23.1
その他の人と暮らしている	5.0

資料:厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部「生活のしづらさなどに関する調査(全国在宅障害児・者等実態調査)」(2016年)



株式会社はっぴい  
and プロジェクト  
代表取締役 辻瑞恵

## 【講習会も決定】

障がいのお子様をおもちの親御様たちの団体よりお声をかけていただき、親なき『ゆいごん白書®』を実際に使った講習会も11月に開催が決まりました。

①11月23日(土)は、自閉症&サヴァン症候群の障がいの娘さんをもつお母様が主催。大阪市内にあるル・クロ・ド・マリアージュで開催されます。

②11月27日(水)は、松原市肢体不自由児者父母の会が主催。

松原市総合福祉会館で開催されます。

どちらも、講習会后、相談会等の時間も設けて、親なきあと問題の少しでもお役に立てればと思っております。親なきあと問題に取り組んでいる実情についての取材等も可能です。



重度の障がいの息子さんをもつ絵本作家の庄司さんに絵本動画(HP内掲載)を依頼。高校生の娘さん目線で「親なきあと問題」をわかりやすく紹介

## 【会社概要】

**会社名** 株式会社はっぴい a n d プロジェクト® (ハッピー エンド プロジェクト)  
**本社所在地** 大阪市中央区久太郎町3丁目1-15 メビウス御堂筋本町BLD. 703  
**連絡先** TEL. 06-7777-1456 FAX. 06-7777-1457  
**設立** 2019年2月4日  
**資本金** 3,600,000円  
**事業内容**

- 年代別・お寺版・社長版・親なき版 各『ゆいごん白書®』(下記画像)の企画・制作・販売事業
- 各『ゆいごん白書®』作成講座・終活講演活動
- 各『ゆいごん白書®』認定講師養成講座事業
- 親なき『ゆいごん白書®』公認サポーター・認定アドバイザー事業
- 「コンサルの窓口®」事業
- 「ゆいごん広場®」事業他



↑画像、左から2024年10月17日新発売の親なき『ゆいごん白書』、お寺版『ゆいごん白書』、社長版『ゆいごん白書』、コンサル付き社長版『ゆいごん白書』、年代別『ゆいごん白書』(30・40代、50代、60代、70代以上、シングル、全世代向け)の計10種類。これまでに累計約1万セットを販売

←講座の様子(2023年9月に開催された阪急交通社名古屋支店様主催の終活セミナー『ゆいごん白書』作成講座には午前、午後の部、合わせて125名様に参加)

## 【SDGsへの取組み】

『ゆいごん白書®』は「誰ひとり取り残さない 社会づくり」に貢献する等の理由から2020年12月に、「一般社団法人 国際SDGs推進協会」の公認商品にもなりました。

「親なき『ゆいごん白書®』」は、つくるだけでなく、つくったあとのことも考えています(SDGs12)。購入者には無料で勉強会・相談会等のサポートが受けられる「公認サポーター」制度を、その受け皿となる勉強会・相談会の講師役を務める「認定アドバイザー」制度も設けています。

12 つくる責任  
つかう責任



## 【受賞歴等】

- ✓ 2018年11月、中小企業診断士の会「ピザの会」主催 事業ステップアップコンテストで「金賞」受賞
- ✓ 2022年6月、大阪信用金庫主催 だいしん創業ビジネスコンテスト  
リ・チャレンジ選考会で最優秀賞の「理事長賞」受賞(右画像)
- ✓ 2022年 秋、IT導入の新しい終活ソフトサービスを開発  
(経済産業省「事業再構築補助金」採択事業)
- ✓ これまで『ゆいごん白書®』作成講座受講者は延べ3000名以上、認定講師は現在35都道府県、ハワイも含めると全国に191名(2024年10月現在)